

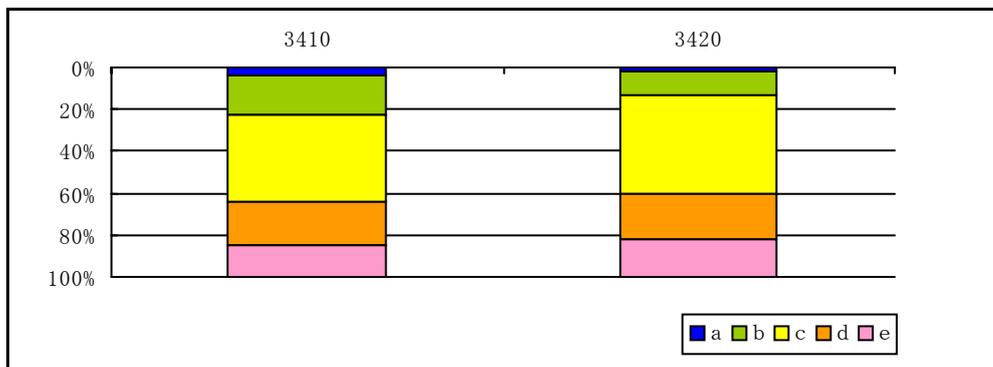
方向 行政活動の基礎的な単位となる個々の具体的「事務事業」だけでなく、これらの「事務事業」を包括した基本的方針を示す「政策」そのものについても、市民とともに評価を行うことのできるしくみを整え、評価から得られた成果を「政策」や「事務事業」の見直しと新たな形成につなげる。

評価
C (c) 客観指標については、HPアクセス件数など、全3項目ともa又はb評価であり、全体として昨年度を上回り、良い状況である。
 市民生活実感については、市民の評価の仕組みに関してはc評価であるが、公共事業の点検に関してはd評価であり、悪い状況である。
 客観指標評価及び市民生活実感評価を総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。

○政策の評価に用いる客観指標の最新値と評価(アウトカム指標での評価)

3410	政策評価における客観指標のうち、目標値が設定できた指標の割合(%)	40	a
3420	(準)情報公開度(HPアクセス件数)(件)	8312	a
3420	再評価を行った総事業数のうち、完了した総事業数の割合(%)	18	b

○市民生活実感評価



3410 このアンケートなど、市民が市の仕事を評価する仕組みが整っている。 **c (c)**

3420 公共事業の再評価によって事業の点検がしっかりできている。 **d (d)**

<参考>この政策を実現するための施策とその総合評価

施策名	市民とともに行う評価のしくみづくり	評価:
3410 概要	「政策」や「事務事業」の状況、本市の財政状況等を分かりやすく市民に伝える方法を工夫し、時代状況に応じて充実することにより、市民とともに評価を行える仕組みをつくる。	C (c)
施策名	公共事業の再評価	評価:
3420 概要	公共事業の効率化・重点化と実施過程の透明化を図るため、事業着手後一定期間を経過したものを中心に、第三者機関による再評価を行い、必要な見直しを行う。	B (c)